

府中市健康地域づくり審議会
第18回長寿サポート分科会 報告書

○日 時：平成30年2月7日（水）19時から21時

○場 所：市役所2階第一応接室

○出席者：多 田 敦 彦（分科会会長） 岡 田 美和子（分科会副会長）
檜 崎 靖 人（分科会委員） 佐 野 敏 明（分科会委員）
田 中 玲 子（分科会委員） 藤 原 洋 子（分科会委員）
今 川 智 巳（分科会委員） 西 宮 達 二（専門委員）
寺 岡 暉（職権委員）

○事務局：九十九浩司健康福祉部長 皿田敏幸健康政策室長
唐川平長寿支援課長 石口由美長寿支援課長寿さぼ～と係長
山田典央長寿支援課介護福祉係長 真田公子長寿支援課長寿さぼ～と係
奥谷剛長寿支援課長寿さぼ～と係 藤井綾子長寿支援課長寿さぼ～と係

○オブザーバー

（株）ジャパンインターナショナル総合研究所 井原 豊

○議題

- (1) 第7期高齢者保健福祉総合計画・介護保険事業計画について（協議）
- (2) 長寿サポート分科会の活動について
 - ① 平成29年度施策の実績・成果まとめ（協議）
 - ・高齢者の在宅生活を支える仕組みづくり
 - ・人材育成の支援と在宅での看取り促進に資する住民啓発
 - ・「支える医療」の中核づくり
 - ・今後、新たに有効と考えられる施策
 - ② 平成30年度の分科会施策（協議）
 - ・項目は①に同じ
- (3) 府中市地域包括支援センターの運営について
 - ① 平成29年度指定介護予防支援・介護予防マネジメントの一部を委託する居宅介護支援事業所について（協議）
 - ② 平成29年度地域包括支援センター運営状況について（報告）
- (4) 認知症初期集中支援チームの運営について
 - ① 認知症初期集中支援チーム(南部・北部)の支援状況等について（報告）

(主な意見等)

1. 第7期高齢者保健福祉総合計画・介護保険事業計画について

- 退院調整率という言葉がわかりにくい。退院時カンファレンスをしたかどうかという方が明確でわかりやすい。
- 通いの場について、元気もりもり体操など運動は高齢者の元気・長生きの基本となるが、両輪となるのが栄養。体操した後、ついでに栄養の話を聞いて帰るなどの取組みをすればよいのではないか。
- 認知症サポーター養成について、確実に進めてほしい。
- 地域ケア会議について、ケアマネの質（対応の仕方、ケアプランの作り方など）にバラツキがあるのが現実。地域ケア会議を通じてケアマネ自身が気づかないことに気づくことができるので、これからも継続して実施してほしい。
- 禁煙の啓発について何らかの方策を立ててほしい。できるだけ若い世代（中学生くらいでもいい）にタバコの害について知ってほしい。
 - 介護者の支援は地域密着型。行政だけでは限界がある。府中市老人クラブ、民生委員協議会が行う友愛活動を含め、地域のボランティア団体のネットワークをコーディネートしながら今後の高齢化社会を乗り切っていかなければいけない。
- 行政は、地域活動を広報して市民に知らせていただきたい。
- （第7期高齢者保健福祉総合計画・介護保険事業計画について、全員承認）

2. 長寿サポート分科会の活動について

- 人生の最終段階を自宅で迎える高齢者の率を指標としているが、地域差を考慮する必要があるのではないか。
- いわゆるエンドオブライフケアの仕組みの議論をしないで、率の向上と言っても空虚に感じる。エンドオブライフケアの事例などを踏まえて議論した方がよい。
- 支える医療を続けるために、小学生・中学生への認知症サポーター養成講座という市の取組みはよい。認知症だけではなく、介護資格など介護のことについて小中学生にしっかり教えていただきたい。
- 核家族が増えたということが看取りの問題を難しくしている。
- 小児への活動は重要。高齢者のアクティビティと小児期の活発な活動は相関関係があるというデータがある。小児との連携、世代との連携が必要だ。
- 人生の最期について、主治医と家族がもっと話し合おうという取組みが大事。
- 高齢者も子どももボランティアもみんなで力を合わせて楽しくいきいきと生きてゆける場づくりが必要。死の間際は病院でお世話になるにしてもそれまでは、自宅で元気で楽しく、地域の人々と仲良く過ごすことが大事だと思う。

- 認知症予防に関し何をすればよいか、またはっきりしていることはない。しかし、糖尿病が大きなリスクであり、府中市は糖尿病が多い状況があることから、認知症予防のために何をするかというより、むしろ糖尿病予防のために何をするかという方がわかりやすい。糖尿病をターゲットにすることが、1つの突破口になると思うので、他の分科会と合同で、そして医師会に相談しながら進めていったらよい。
- （長寿サポート分科会の活動について、全員承認）

3. 府中市地域包括支援センターの運営について

- （全員承認）

4. 認知症初期集中支援チームの運営について

- 府中地区で、認知症が増えて社会問題となるような困難な状況があるかどうかなど、実態調査をしていないのが現状だと思う。発生頻度などデータ収集が必要。データがないと、初期集中チームが効果を発揮したかどうかよくわからない。
- 介護保険の認定審査の情報など活用すればよいのでは。
- どのようにチームにつなげたらよいかわからない。家族がどの程度困っているときにチームを紹介したらよいかなどわからないのが現状。

5. その他

- 医療機関、医師会、リハビリテーション、訪問看護、看護小規模多機能、社会福祉士、行政、民生委員、住民などの社会関係資本が繋がって初めて地域包括ケアシステムが成り立つということを意識しながら我々は取組みを進めなければならない。

以上